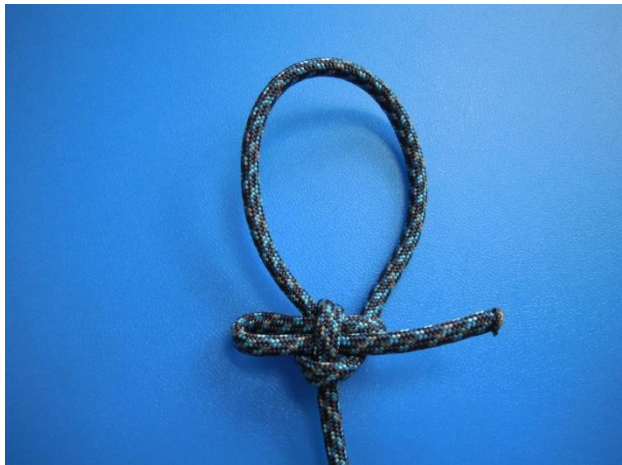
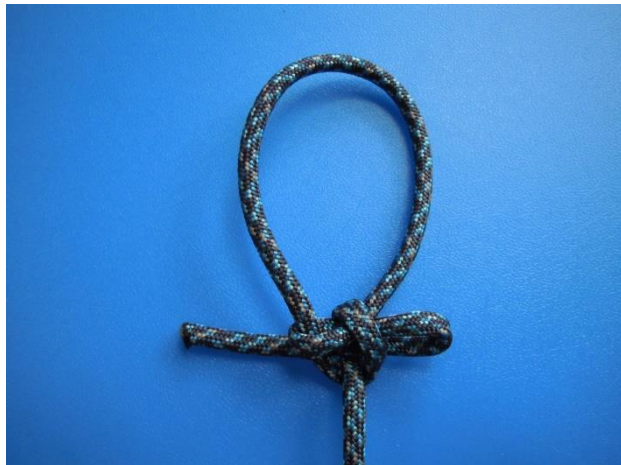


# Kalmyk Loop (Knot)

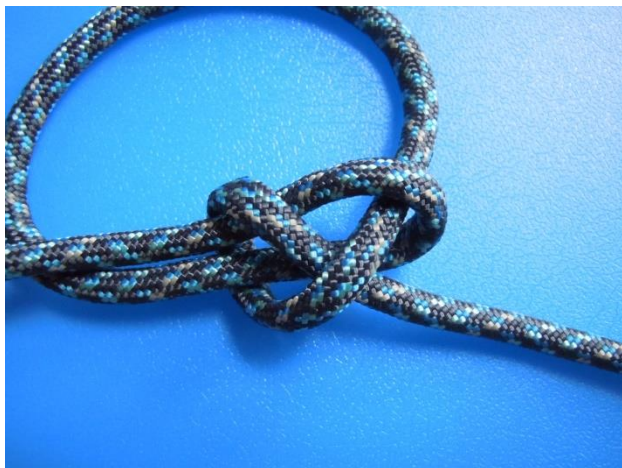
この名前の由来については不明です。慣れると一つの動作として輪をつくることができますので、様々な場面で活躍する結びかたです。



おもて



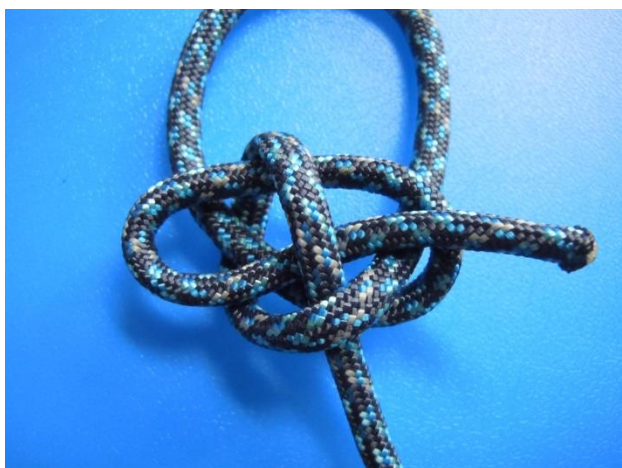
うら



コードの端に輪を作り結び方です。同様な結び方に「もやい結び」がありますが、ほぼ同じ結びです。異なるのはコードの端を輪の中に通してしまうのではなく、引き解け結びのように折り返しています。

この端を引くことで、結びを解くことができます。

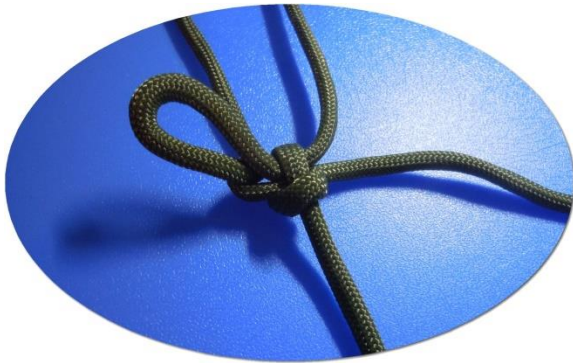
左の写真がもやい結びですが、輪の中を通っている」コードの端を折り返して右側に出すようにします。



このような状態で引き締めるとこの結びが出来上がります。

杭などにロープをかけ、左手でロープの端を逆手で持ち、その左手を上に向けるようにして掌にロープを巻き付け、左手を返して甲の方の輪の中にロープの端を折り返して入れると、この結びができます。一連の動きを練習すると、一瞬のうちにロープを杭に固定する輪を作ることができます。

## 追記



この結び方は Kalmyk Loop, Eskimo Bowline, Cossack Loop などと呼ばれていて、それぞれ地名が付いていることから昔から使われてきたものだとわかります。

もやい結びに引き解け結びの要素を取り入れた構造になっていますが、確実に結べて、結びやすく、解くことも容易な結び方です。



太いロープの場合、短い方を逆手に持ち、長い方をその拳に上から巻き付けます。そして、指を伸ばしロープを撥ねあげるようにしてできた輪の中に短い方を引き解け結びのようにして折り返しを入れます。



指を伸ばし、その輪の中に親指と人差し指で短い方の途中を掴んで引き入れるような動作になります。

これを一連の動きで行えるように練習すると、とても簡単に一定の大きさの輪を作ることができます。



細いコードの場合、短い方を指で挟み、長い方をその指に上から巻き付けます。そして、人差し指を伸ばしコードを撥ねあげるようにしてできた輪の中に短い方を引き解け結びのようにして折り返しを入れます。

**注意点：**結ぶとき、それぞれのコードを引き締めるのですが、引き解けの折り返しにした部分を強く引きすぎると結びにならず、解けやすくなります。結んだあとは結ばれているか必ず確認が必要です。